

TOPIK6 級にすんなりと合格する人もいれば、何度も同じ級で足踏みをしている人もいるだろう。私もそんな一人だった。何度受けても同じ 5 級、しかも点数がじりじりと下がっていく、それが続くとだんだん自信を失っていき、「もう無理なのでは」と思いはじめる。韓国語学習なんてやめてしまおうかと思うのに、朝が来るとまた音読練習をし、結局やめられない。ジレンマに陥っていた。私の TOPIK6 級までの道のりは本当に遠かったのだ。学習を続けていても全く身につけていないような気にもなった。しかし、年 2 回行く短期研修では、半年前とは違うことができるようになっていたり、言えるようになっていたりした。

そうやって一喜一憂を繰り返しているうちに「もういい加減に受からないと」と、ぐずぐずしている自分に嫌気がさした。そんな時にあることをひらめいたのだ。

「そうだ、読解と聞き取りで満点を取ればいいんだ！」と。足かせだった「作文」をどうするかずっと悩みだったが、他で満点を取れば「作文」はたったの 30 点で済む。30 点なら十分書ける。そのために、1 か月くらいかけて過去問 1 回分のスクリプトを全部、書き写した。

「読解」と「聞き取り」は問題を解いた後、スクリプトを声に出しながら書いていくと、驚くほど内容が頭に入ってきた。これまでは読んだつもりでいただけだったんだと、目が覚める思いだった。問題の「作文」は 30 点でいいとはいえ、何の備えもなしに受けるのは無謀だと思った。『HOT TOPIK』の模範解答をよく読み、決まった型があることに気付いた。私の場合、「～단」と書き始めることで、格段に書きやすくなった。

そして、もう一つのひらめきは、「韓国語ワールドを作ろう！」だった。研修などで韓国に行ったときはずっとニュースを点けっぱなしにして、道を尋ねたり注文したりと、無理やりにでも韓国語をフルに使おうとしている。なのに日本にいて、宿題や音読だけで勉強した気になっているけれど、こんなことで合格するはずがないと思ったのだ。誰もが考えることかもしれないけれど、「韓国語ワールド」と呼んで、自分の周りは常に韓国にしようと考えたのだ。例えば電車で読むものは小説も、スマホで読む記事もすべて韓国語に。電車では意外と集中して勉強できた。はては作文を書き、こっそりと音読までも、という具合に韓国語に触れた。韓国語が聞こえると耳をそばだてたりもした。

こうして起死回生をかけて TOPIK 本番に臨んだ。「聞き取り」は普段 1.2 倍速で聞くようにしていたこともあって、内容がスムーズに耳に飛び込んできた。「読解の練習」は「聞き取り」の選択肢を読むときにも生かされ、速く正確に読みとれた。「読解」でも見直す余裕まで生まれた。そして例の「～단」で「作文」も乗り切った。

結果は……満点とはいかなかったけれど、満足できる点数で合格だった。やっと長いトンネルから抜け出せたような気分だった。石の上にも三年というが、私がさまよい続けたその 3 年間は決して無駄ではなかった。TOPIK は単なる語学試験で、大きな成果とは言えないかもしれないけれど、この合格は私に自信をもたらしてくれた。それは韓国語学習に留まらず、生きていく上でも、小さな自信を与えた大きな 1 歩となった。どんなことでもあきらめずに淡々と続けることで、目には見えなくても着実に自分の力に結びついていくのだ。